※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００１

令和５年度　環境緑化科

教科	農業	科目	造園施工管理	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	造園施工必携（日本造園組合連合会）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

実習で取り扱うため、本学科では特に馴染みのある石材、木材、竹材などの造園材料の種類や特性について学習します。また、環境に応じた合理的な施工と維持管理についても学習します。授業形態は座学になります。

２　学習の到達目標

・造園や造園施工材料の特質及び合理的な施工管理方法について理解し、知識・技術を身に付ける。
・造園施工材料の種類と特性から造園空間に合った造園施工材料の選定、施工管理を行い、課題や問題に自主的・主体的に取り組み、これを解決しながら、目標達成に向け意欲・態度を身に付ける。
・緑地環境、造園、造園施工と管理の現状、適切な施工材料の必要性、施工管理の知識について体系的・系統的に理解する。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	造園施工管理について体系的、系統的に理解するとともに、関連する知識、技術を身に付ける。	造園施工管理に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付ける。	造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	造園施工管理の意義と役割	社会環境と造園施工管理 造園施工管理の意義 造園施工管理の特色と役割	a:造園施工管理について体系的、系統的に理解するとともに、関連する知識、技術を身に付けようとしている。 b: 造園施工管理に関する諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、意欲的に学習に取組もうとしている。	・学習状況の観察 ・ノートの記述 ・定期考査の結果(習得知識の確認)	・学習状況の観察 ・ノートの記述	・学習状況の観察 ・ノートの記述 ・目標と現状による自己評価
2学期	造園材料の種類と特性	石材 木材、竹材 金属材料 コンクリート材料 コンクリート二次製品 窯製品 その他の造園材料	a: 造園施工管理について体系的、系統的に理解するとともに、関連する知識、技術を身に付けようとしている。 b: 造園施工管理に関する諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、意欲的に学習に取組もうとしている。	・学習状況の観察 ・ノートの記述 ・定期考査の結果(習得知識の確認)	・学習状況の観察 ・ノートの記述	・学習状況の観察 ・ノートの記述 ・目標と現状による自己評価
3学期	施設施工管理	園路・広場工 水景施設工 庭園施設工 公園施設工 工作物の管理 景観の管理	a: 造園施工管理について体系的、系統的に理解するとともに、関連する知識、技術を身に付けようとしている。 b: 造園施工管理に関する諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び、意欲的に学習に取組もうとしている。	・学習状況の観察 ・ノートの記述 ・定期考査の結果(習得知識の確認)	・学習状況の観察 ・ノートの記述	・学習状況の観察 ・ノートの記述 ・目標と現状による自己評価

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度